

# 京交山岳部報

No.296

'77 6月号

[第1130回例会]

鈴 鹿

## 釈迦岳

(R)

日 時 6月2日(木) 5.30 横大路車庫集合  
コ ー ス 京都東一八日市一神崎川発電所…センコウ谷…中峠…釈迦ヶ岳…中峠…  
八風峠…三池…中峠…センコウ谷…神崎川発電所

担 当 者 横大路 大西純一 山と高原地図「御在所岳・鎌ヶ岳」

[第1131回例会]

湖 北

## 乗鞍岳

(R)

日 時 6月12日(日)  
コ ー ス 京都一今津一国境…乗鞍岳△…下山  
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 539) 申込〆切 6月4日(土)まで  
備 考 マイカーで行きますので参加希望者は必ず連絡のこと

[第1132回例会]

ファミリー登山

## 千歳山 △622

(R)

日 時 6月26日(日) 西京極体育館前 9時集合  
コ ー ス 西京極一八木一神吉…千歳山△622…下山  
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 652) 1/5万図「京都西北部」  
備 考 4月半国山、5月ロックガーデンに続くファミリー登山をしたいと思っ  
ています。多数参加下さい。尚マイカー利用に付き必ず連絡の事。  
交通費 ¥300.- 申込〆切 25日(土)午前中

## 。 今 月 の 集 会 。

日 時 6月20日(月) 19時から 下鴨寮  
議 題 1. 例会(△1129~1131) 部員動静 報告  
2. 7月例会 集会について  
3. 連絡事項 その他 一当番 梅津支部一



## 自然がそこに

宮 後 正 樹

私ごとで誠に恐縮ながら、このたび永年住みなれた下鴨をあとに京都路北の山あいに転宅した。薫風の好季だっただけに、ことのほか空気の美味しいさわやかな環境に喜こんでいる。朝はシジュウガラの可愛い囀りで明け、ウグイスは1日中はしゃぎ、ツバメが部屋の中まで入って来て戯れている。先日は久しく京都市内では聞かなかったカッコウとホトトギスの鳴き声に挨し、まだ京都にもこんな住環境があったことをうれしく思った。また夜になるとキョッキョッキョッとヨタカが余韻のある声で虚勢をはっている。かって比叡山黒谷の青龍寺へ野鳥探聴によく出かけた高校時代を思い浮かべて耳をすましている。傍に流れている長代川に螢の光が舞うのももうすぐである。

100軒近い住宅が山の迫った谷あいに展がっているが、せいぜい200メートル余りの低い山は国有林や京都大学の演習林となっているため自然が保護されて野鳥たちの楽園となっているのだから。宅地造成のダンプやドライブウエーの車を小鳥たちは大変きらうようである。

山裾を伐り開き田圃を埋めたてた造成地はツルハシヤシヨベルも跳ね返す固い土質で、岩石には粘土質の土がぎっしりカンカンに詰ってそのままでは水はけもよくない。土を掘ってフルイにかけても本当に僅かの土しか取れない。幸い先輩牧さんのご助力を得て目下毎土・日曜と馬糞、ワラなどの堆肥を入れて山砂と混ぜあわせ土の改良に大わらわである。

背丈ほどの雑草が生い繁り、ガラガラの土地だった河川敷も先入者の汗と油の結晶で今や立派に生れ変っている。珍しい花が咲き誇り、蝶やコガネムシが飛び交い、小さなウネにはサヤエンドウやナスビ、トマト、キクナ、ハタケナなど新鮮な野菜が生々と育っている。

一寸掘っただけで植え込んだ樹木は6カ月、1年先には元気が無くなって来るという。切角の庭木を元気に実らせてやるため一度はやらねばならない土の改良、それは馴れない者にとっては大変な仕事である。変な話だが今更ながら開拓者の努力や造園の、さらにはお米をはじめ野菜や菓実など農家の人の苦勞が並大抵のものではないことをしみじみ味わっている今日この頃である。とともに土いじりの出来る有難さに感謝しながら、楽しみというか、長い将来の結実の喜こびに逼るものだと精を出している。

そうしてマサキ(小生の名前と一緒に 済みません)、ムラサキシキブ、シロシキブ、ウメモドキ、ムクノキ、マユミ、ピラカンサスなど実がのって野鳥たちが好んでやって来てくれるような木を1本でもたくさん植えてやりたいと念願している。

5月15日のバードデーを送り、6月5日の世界環境デーから今年もくりひろげられる環境週間を前に、みんなの力ですばらしい環境づくりに努力しようではないか。

## 尾ヶ平

武田喜久郎

4月3日 早朝より伊藤さんのお迎えを受けて名神を大垣へ走る。好天気で金養岳が白銀に輝いて見える。伊吹山は対象的に雪がない。大垣市街をでたところで道に迷い神戸町の手前で引返して宮橋を対岸に渡った。警笛にバックミラーをみると、高木さん御夫妻だった。ここからは御一緒で、能郷に向い。金原の部落で伊藤さんは盛んに写真をとられる。樽見では地元の高木さんが道を間違えて大須の方へ行かれたが、すぐに気がつかれて戻ってこられた。門脇を過ぎたところで、能郷白山を見る。長嶺を過ぎた所が一番大きく美しい白山が望まれたが、天神堂の辺りで車をとめて写真をとった。今回は納郷白山の展望台として選ばれた山行でもあった。長島の源屋で大垣の国枝さん、宇佐美さん他1人と合流して、源屋の上手から旧道沿いに山腹を廻くように能郷の出合を望み返る。北東に尾根の端に出ると祠があった。これが伊藤さんの説明によると愛染地藏と云う。昔若夫婦がこの地で倒れたのを哀れんで建立したものだとか、道は尾根の向うにやはりゆるやかな水平道路と続いているが、我々は祠から戻るように尾根を登る。しばらくで600mの小平らしき所に出る。伐採されていて能郷白山、前山はべつとりと雪がついている。天候があやしくなってきたので先を急ぐ。展望がよかったのは小平だけですぐに杉の木立に入ると残雪があった。この辺りは木立のせいと一面にべつとりと残っていた。車に置いてきたスキーが気になったが、それもしばらくで残雪は北斜面にだけにしかない。右手から道が上っている。長島からの道らしい。少々ヤブがうるさくなってきたが、踏跡が残っている。800m辺りで頂上と感じがする。前方のピークの後に3のピークが見える、どうも遠いのがあれらしい。裏山にしては面白い山だった。こぶし、まんさく、しょうじょうばかま、わりと平凡な山の坊が樹々の芽がこれからで、枝の間からの展望はわりとある。927m△の三角点は地元で大平と云われている。北東に1000mピークがありその後方に1234mの大白木が見えた。ドウの天井はその裏になってみえない。白山の方から黒雲が押し寄せてきてひとしきりアラレと雨を降らしていく。直接長島に下山しようとしたが、矢張り元の道に出てしまい。小平で白山、雷倉の写真をとろうとしばらく待ってみたが、冷たい雨に濡れただけだった。源屋に下山してみると下はたいして降らなかつたようだ。高木さんに樽見でコーヒをよばれて分れたが大垣近くで一緒に大岐阜大バイパス迄送っていただいた。のんびりムードの山も楽しい。

— 今月のリーダー会 —

6月7日(火) 大槻宅

# 武奈ヶ岳と棧敷ヶ岳

## —新宮山の会と交歓登山—

本局 武 田 喜 久 郎

南紀では山行のたびになにかと御世話になっている玉岡さんが、来京され北山に登られると聞いたのが二週間前だった。最初は北山へ先行して歓迎準備のように考えていたが、事情が変わって全行動のプログラムと交歓山行の参加者を含めた準備の責任を受けもつようになった。

直接に連絡がとれないのでどうしても準備がスムーズに進まない。おまけに時期として山の春には少し早いし花も少ない。できれば京の北山のシヤクナグを見てもらいたいし、春斗、人事異動あわただしい季節でもある。

4月15日 午過ぎから雨となる。夕刻伊藤さんから電話があって、新宮は20時に出発するそう。風雨が激しい。京都到着は24時の予定なので仮眠場所を手配されたいとの事。車のコースは海岸線ではなく、大台、大峯の山間168号か169号線らしい。伊藤さんに再度連絡をとり伊勢廻りならば24時到着も可能だが、予定のルートの場合は京都到着は16日のAM2時頃と思うので、連絡つきしだい電話をしてもらおうことにして準備をする。

雨は春雷を呼んで春一番の嵐となってきた。天候状態は不安だが、ベテランの人達のことゆえ電話の番をして夜を明かす。予定をとくに過ぎた16日AM4時過ぎ第一報が入り「京都に入って仮眠している。現在地がはっきりとしないが、祇園周辺か、市内の中心部らしい事が分った」第二報で烏丸車庫に集合と決まった。宮後部長、鷺見、石田両君に連絡を済ます。そのうちに再び雨が激しく降りだした。朝食もそこそこ家をとび出す。挨拶用の小荷物が多いため車は止ってくれない。やっと車をつかまえて烏丸車庫に着くと、雨も少しはあがっていい感じとなってきた。宮後さん、伊藤さん、リーダーの鷺見君、石田君は先着で、色々御世話をかけた。

幸い雨も小降りとなったので、雲ヶ畑まで行き天候の工合では棧敷ヶ岳に登ることに決めた。(後日に聞いた事だが、五条支部の広瀬君が、部報を見て武奈ヶ岳へ行くということで、お子さんを連れて北比良峠迄行かれたとの事である。雨に濡れてひどかったと思いますが、嬉しかった、感激です。) 山行のようすについては、私が駄弁を寿するより新宮の玉岡さんの名文をいただいたので、そっくりここに載せさせていただきます。

## 棧敷ヶ岳・武奈ヶ岳

京都交通局山岳部との交歓山行

玉 岡 憲 明

春の嵐を衝いて我々4台の車は深夜の奈良盆地をひた走る。それはまさに、昨秋京都勢が伊勢の総門へ土砂降りの夜、南下したときとそっくり同じ状景である。これは伊勢の大西老のいわれた「

朝雨、女の腕まくり」であろうか。それにしては京女はもっとおしとやかなの答だのに…。交歓と銘を打たれたが、信長の桶狭間へのなぐりこみに等しい。京に着く予想は大きくくずれて、午前二時となっている。計画は大津まで抜けることにはなっていたもの、離れては連絡に悪く河野君の実家が京都であることを幸いに、深夜ころがり込むようにして入れて頂く。京都に入ったら電話を入れるよう言われていたがこんな時刻では恐れ多い。

交通局のスト突入の異常事態に本来ならば速慮し時期を改めるべきであったのに、敢えてやって来たのは熊野の田舎者でなければ出来ない芸当かも知れない。夜は明けたもの、隙間は見せてくれない。伊藤さんと電話連絡の結果、とにかく烏丸庫車で落合うこととなり、無情の雨の中、電車が次々と京の街へ繰り出して行くのを眺め乍ら暫らく待つ。ストの交渉やら人事異動と忙しい最中を官後山岳部長さんも見えてくれ、伊藤氏、鷺見氏、武田氏、石田氏らと善後策を講じて頂く。こちらは棧敷にこだわって僥倖を唯一の頼みとして案内をして下さることとなり、六台の車を連ねて加茂川沿いに北山に入る。

漸く芽吹き出した新緑が淡いガスの中に刷毛をふいたようであり、その中にときおり鮮やかな山吹が浮かんでいる。ときおり遅い桜が花吹雪を降りかけて我々を歓迎してくれているかのようだ。強引に車を乗り入れて、棧敷への登山口を示す導標地点から雨具をつけて登り出した。幸い雨足もいつしか止み、高い気温にみな一様に薄着となった。径もしっかりして北山特有と云われる藪に濡らされることもない。足元には可憐なエンレイ草が花をつけ、蛙の卵が水溜りに長い袋を横たえてあったりして結構珍らしく楽しい。やがて巨大な送電鉄塔のある尾根に出る。一面のモヤで方向は定かでないまゝ伊藤さんについて、雨に濡れた篠竹をかき分けるようにして一旦下り、そして登り返して行く。山頂は小広い篠竹の原っぱで、895mに二等三角点石標と擬った標柱があった。沢山の缶ビールに官後さんからと女性向けにとワインが二本が京都のザックからとり出され三角点の周りに積まれる。新宮からは、これしか出しようがない太平洋原酒を出して添える。

遠く平安の昔、敗れた公郷がこの山にのがれ棧敷を組んで京の都を望み、栄華の往時をしのんだことからこの名がついたという。この北山は近代登山の時代に入ると幾多の京の岳人発祥の山としてそう明期を迎えたのであるが、昔と現代を比較したとき、他の山々が総じて宗教登山との関連があるのと違うところに面白いものを感じる。伊藤さんの発声でバンザイを挙げ、ビールで乾杯をする。今日は京の街を望むすべもないが、暖かい友情がある。良い山の友に恵まれた身の倖せを噛みしめ、そしてビールを味った。ささやかな交歓記念品として南紀御浜焼のグイのみ盃は、集めておられるとのことと石田君に大変よろこんで貰ったのは良かった。我がサイン帳に鷺見さんは、「古都洛西に住いする松尾嵐山山荘主？」と石田さんは「生れも京で西陣の里、ヒゲのこうじ」と自画像を、武田喜久郎さんは「近い日のうちに洛西に変わる」とそして御大將は(原酒=酔ッた)棧敷ヶ嶽よ、お久しぶり、今日は僕の大事な岳友たち新宮の精鋭諸兄と君を訪れた。栢かわらぬ藪の歓迎ありがとう」と記してくれていた。私は初めて訪れた良い山には必ず、再度訪れる主義(?)、コースと季節を変えていま一度この棧敷に来たいと思いつつ下界への径を辿った。

その夜は臨濟宗妙心寺派の総本山である妙心寺の宿所、花園会館に宿泊と交歓宴の手筈をとって

頂いており、わざわざ左記の九氏が我々のためにお越し頂いた。我々は歓迎される資格も資質も持っているものではないのに、五年前の十二支会子の泊来山以来の同好のよしみでお顔を見せてくれたもので山とは有難いものだと感じる。お顔振れは、今日棧敷にお附合頂いた伊藤、武田、鷺見三氏の外に宮後、坂井、守山、大槻、三橋、賀嶋氏ら六氏であられる。

十二支会例会のあった年の十一月、伊藤さんの紹介で宮後、武田、守山の三氏が子の泊に來山され、朝モヤが川面を流れる和気の渡場迄送り、桐原へ畑林と迎えに行ったことがある。守山氏とは五年振りである。京都交通局ではない賀嶋さんも見えて頂いたのは意外あり又嬉しくもあった。

宴は精進料理のため少々サカナに乏しいきらいがあったが、アイスボックスに冷やして持って来た一尾の初鰯が僅かに賞味して頂けたのはせめてものなぐさめ。しかし、山岳部から二本、伊藤さんより二本と大砲の御提供があって結局五升を軽く空けてしまった。なごやかにして楽しい一夕であった。

翌日はカラリと晴れた上天気に恵まれた。気象予報は午後より崩れるとのことながら、出足さえつけば人間はその環境に順応するものだから今日は武奈の頂上は踏めると一安心。早朝より伊藤さんが迎えに来て下さり集結場所へ向かう。本日は山村、畑、津田三大先輩、昨年暮保色山に見えられた中村恭子さん、王生（イクルミ）そとさん、楠とし子さん、宮後夫人とお子さんのあい子さん、武田夫人とお子さんの雄一郎君、多勢のお顔振れとなる。武田さんの御配慮で八台の車に京都新宮のメンバーを混乗され沿道の御案内を頂き乍ら登山口に向かう。寂光院、三千院で名高い大原の里とはどんどこころであろうかと胸を躍らせ乍ら喰い入る眼差して眺める。戦時中、我が子、我が夫の無事なる帰りを祈って参詣後を絶たなかったという還来神社前より間道に入り琵琶湖岸道路に出ると武奈ヶ岳正面谷登山口は近かった。簡単な両会メンバーの紹介があり、昨日と打って変わった明るい空の下、三十余名の賑やかなパーティが切れ込んだ金屎峠を目指して動き出した。風化した花崗岩の砂がピムラムを通して心地良く伝って来る。

左手頭上は堂満岳で急峻なエルンゼというのが喰い込んでいて面白そう。雪の詰った頃、ここで各種のトレーニングをやり、時には雪崩にやられて大きい事故もあるとのことであった。風の通り道のような金屎峠に立つや蓬萊山の別働パーティの岡田リーダーから私達への歓迎メッセージを電波にのせて送られて来たのには驚いた。突然のこととて返答に詰ったが、今回の交流が京都交通局山岳部を挙げて徹底しており、宮後部長のもとにすばらしい規律と友愛の情を見る思いで、うれしいやらおそろしいやら、又うらやましい限りである。

振り返った湖は淡く輝き映えておだやか、かの三高ポート部の遺跡をうたった状景は想像もつかない。やがて径は少し下り湿潤地帯を通り、谷に沿って中峠へ出る。山の植物では開花の早いショウジョウバカマやイワウチワが見られてカメラに収める。この辺りはもう日本海側となり篠竹にかわって根曲り竹が背支けを押しかぶせる様に繁り、その中を山頂に向かって進む。山頂かと思ったピークはさにあらず、その向うに展望をさえぎる何者もない山容を見せて我々を招いていた。

峠部より深い溝状の径を一步一步と高度を上げると、鈴鹿の雨乞岳に登っている錯覚すらおぼえる。

明るい西南稜に立つと1214mの比良の最高峰、武奈ヶ岳は一投足のところにあった。一同うち揃って山頂に立つ。ときに14.00、山頂からの眺めよりも、夫々のザックから缶ビールやらなんやらを取り出すことの方が先沢で忙しい。私にバンザイの音頭をとれとの御指名で諸先輩の前ではイササカ気おくれがしたが、皆さんの御好意に甘えて、暖かい友情と良い天候に感謝の念をこめて高らかなバンザイを挙げさせて頂いた。例の通りの南紀の地酒「太平洋原酒」を南紀の御浜焼のグイ呑みで皆さんに御賞味頂く。

360度、展望をなえざる何者もない大観、昨日登って来た棧敷ヶ岳も幾重にも折り重なった山波のうちに見え、北に目を転じると福井との県境をなす起伏に一等三角点本点があるという百里ヶ岳が一きわ高く視野に入り、それと賀嶋氏から御指摘を受け登高の意慾をそそられた。賀嶋さんにそれとなくお願いしたところ一諾に是非登ろうと仰言ってくれた。一つの山を訪れ、行を共にして頂いた方々とうちで新しい機縁が生れて次々と新しい展開が生じる人生とは面白くもあり又責任も重いものだと思う。もっと山頂で話を交わし、眺めを楽しみたいが時間が許してくれない。石田氏の作って下さった歓迎字幕を入れて記念写真をとり、山頂へ別れのコールをかけて下る。坂井さんの作って頂いたコーヒーは乾いた喉に心良くおいしく頂いたが、八雲ヶ原という、ゆるやかな凹地に着き休憩したところ、京都の女性方が一足お先に着かれて抹茶の御接待の席を設けてくれたのには二度びっくり。「京おんな」という名菓の花まで添えられた心にくさ。これで総門山の仇は完全にこの武奈ヶ岳でとられた感じ。新宮の連中も今後、心して山に登ることであろう。

出来得ることならば、足で登った山だから足で下りたいところながら長い南紀への道中を考えるとそんなぜいたくは言えず、心配して下さる武田さんらに一も二もなくロープウエーに乗せて貰うことをお願いする。16.00発の空中高いロープウエーから右に角度を変えるリフトに乗り継いで、朝方の駐車地点に戻ったのは16.30、道の両サイドに相對して並び宮後さんから代表の送別の御挨拶に「今後とも御交誼の程を」重ねてお願いし二日間に亘っての暖かいお附合にお礼を申し上げたのである。一人一人とお別れの握手は離したくない気持が一杯溢れるよう。拍手で送られるときは気恥づかしい想いの入りまじった感じで一足お先に出発させて頂いた。

## あ と が き

今回の初めての交歓山行は私鉄のストが判っているながら敢えて踏み切ったこと、又京交山岳部の皆さんの至れり尽せりのおもてなしに、いささか甘え過ぎたきらいがあった。これも地理不案内のせいと、井の中の蛙の世間知らずのせい故と御寛恕をお願いしたい。

新宮山の会、新宮亀の子会ではこれを機縁に今後も永く御交誼をお願い出来るよう努力しなければならない。そして今回の交流を是非、今後に生かして行って欲しいとは担当者としての希いである。又、南紀にあって会は二ツ三ツとあっても私は良いと考える。人間夫々の指向するものは異り思考も違、その特性を伸ばして行くべきであるが、一つのカラに閉じ込めることは成長につながらない。時に今回のように行事を共にして南紀にあって山という共通の場のなかまとして交流して貰いたい。おわりになりましたが、京都交通局山岳部の皆さん、そして特にお附合下さいました賀嶋増造さんに新宮の一同に代って厚く御礼を申し上げますと共に、益々の御発展をお祈り申し上げます。

そして南紀への再度のお越しをお待ちいたしております。

おわり

### 交流参加名簿一覧表

京都交通局山岳部 (敬称略)

伊藤潤治、 宮後正樹、純子、あい子、 武田喜久郎、雅子、雄一郎、鷺見敏一、  
石田幸次、 畑 照人、 山村敏郎、 津田 実、 坂井久光、 三橋 勉、大槻雅弘、  
守山寿彦、 王生(イクルミ)そと、 楠 とし子、 中村恭子

日本山岳会岐阜支部 (敬称略)

賀嶋増造

新官山の会

玉岡憲明、 川島 功、 松田 修、 芝崎晴一、 畑林清子、 藤野多佳子、  
深谷俊子

新宮亀の子会

小林庸泰、 小田七郎、 戸石二生、 竹本公子

新宮山彦グループ

河野 弘、 高田潤一

### 後 記

なにぶん不慣れの為いろいろとお世話をお願いした方々に迷惑をかけた事をお詫します。言訳になりますが、忙しい宮後山岳部長に替り急に接待を引継いだ為、一部のリーダー、直接にいろいろとお願ひした方、ロープウェイ、リフトと予定外の行動となって、十二支会の一部の方に随分の負担を願ひまして申訳ありませんでした。御礼申し上げます。

又新宮の方々には当方の手落ちから、花園会館の宴会ではサカナはなし、酒はなし、宴会の席はなしで、たいへん恥しいことでした。これにこりずにぜひ御来京下さい。玉岡さんの報告にありますように、良き山には再度訪れる主義で、ぜひ京の山々におでかけ下さい。お待ちしております。

### 京交山岳部の運営面についてのアンケート

京交山岳部の企画運営に当たっている現在のリーダー団のあり方を含め、京交山岳部の運営面について再検討を行うため、下記によりアンケートを募ることになりました。ご協力をお願いします。

項目	1. 名称について	2. メンバー構成	3. 会議の持ち方
	4. リーダー会と部員集会について		5. その他
対象者	現リーダー団員、支部委員、	51年山岳部活動者	以上40人
募集期間	52年6月10日～6月30日		



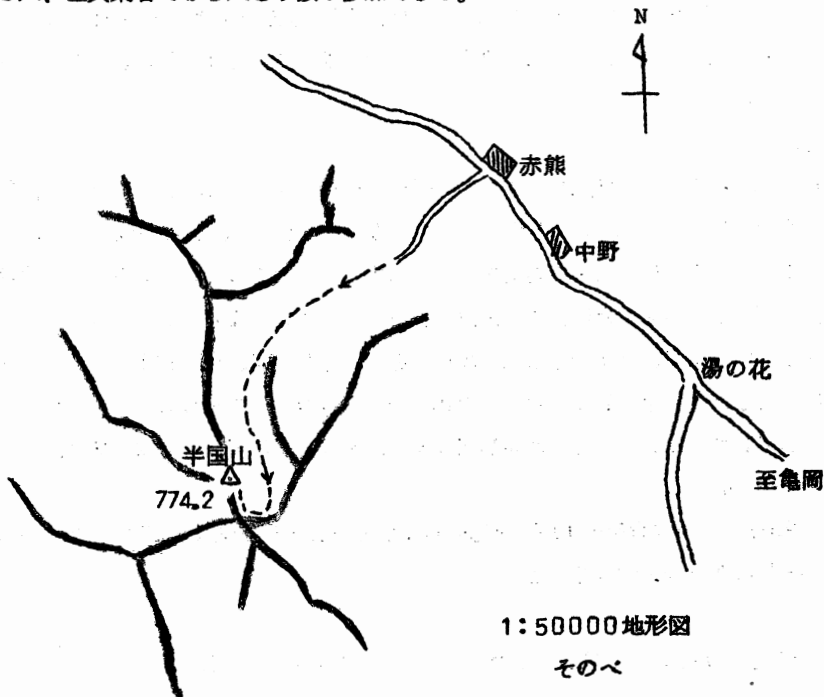
# 半国山

大槻雅弘

半国山、少し変わった名の山だ。以前から登りたいと思っていた山の一つである。昨秋にお月見登山として選んだが、台風の為中止した経過がある。そう高くもなし、山は薫風、新緑の候である。山菜採りを兼ね、ファミリー登山として今回例会に組んだ。

西京極体育館前、9時集合。もう皆んな集合して、担当者の小生が最後になってしまった。でも5台の車に分乗して、五条通の信号を出したのは、カーラジオがちょうど9.00時の時報を知らせていた。一路、西へ向って亀岡から湯の花温泉へ。そう広くもない田舎道を、天引峠へ向う国道を一時間足らずで赤熊へ。そこから部落の中ほどの十字路を本梅川へ出る道と別れ、左折する。材木置場の所を500mばかり林道に入った所で車を駐車させた。

静かだった山が、車から飛び出した子供達で一度に賑になった。広君、正君の三橋兄弟。博文君、理恵ちゃんの井上兄妹。雄一郎君、晶子ちゃんの武田兄妹。映子ちゃんは広瀬パパと最年少4才での参加。由紀子、綾子の大槻姉妹。子供全部で9人。大人は畑さん、渡辺さん、それに子供の親とその親も含め13人、全員集合で22人と多数の参加である。



空は曇り空、今にも雨が降りそうだが子供達の為にも、なんとか一日もってほしいものだ。こちらの心配をよそに、ワイワイ言っているうちに出発。10時5分。セメントで基礎固めされ、その上に小さな祠が祭ってある所から、谷の左岸沿いに道がついている。風もなく、曇り空の山歩きは20分も歩くと汗ばむ。いつも、子供の足を心配するが、いつも子供達の足は早く、心配はいつも大人達の方にせねばならない。緑一色の谷筋に、ピンク色のツツジが風をさそうように咲き、ここで一息入れなさいと言っている様である。一枚脱いで汗をふき、谷水で顔を洗い、冷い水を一口飲むと、アァ…山はいつ来ても良イナーという事になる。

歩き出して2時間。よく踏まれた道が続いているが、頂上は現在地からはまだ相当かかりそうだ。腹はへるし、今にも雨が降りそうな天気に加え、子供達の「まだか/もう歩くの終りか」にはまいる。少し開けた所、22人が昼食するにはあまりいい場所とはいえないが、時計の針も12時を廻っているので食事にする。おにぎりや、パン、それにデザートと、楽しく賑やかな昼食である。

今日は、このペースでは半国山の頂上は踏めそうもない。半国山の半分で引返さねばならないかも…。折角たくさんの人達に来てもらったのに、なんとか頂上迄行きたい。食事後、目の前の尾根へ偵察に出る。5分程で尾根を登ると、尾根筋に道がついていた。その道を右へ、西方向へ少し行くと目指す半国山の頂が望める所に出、早速、食事地点まで引返し子供達を先頭に出発する。尾根道には、立派な指導標も立っていて、食事した地点の谷筋をつめて来てもこの道と合流したが、子供等を考えるとブッシュ帯をさけたかったので速回した結果になった。

谷筋からの道と、尾根道の合流点から200mばかりで南へ下ると干ヶ畑、西へは杉ヶ沢から琉璃溪への分岐点へ出る。この分岐点から急な道を、ほぼ一直線に笹を分けて登ると頂上へ出た。よかった。皆んな元気に食事地点から30分で登れた。22人の万才の声は、いつも以上大きく山に響いた。

#### 〔反省〕

登山に地形図は必携だが、最近1:25000図が発行される様になってからは、今迄見馴れた1:50000図との感覚に、時々とまどう時がある。と言うのは、前回の登山で2.5万図を一生懸命見て歩き、その次に5万図を持って登った時などはなおさらだ。それも、子供を混えて歩いた時と、大人ばかりで行動した時間と、距離の差も考えねばならない。賑やかに話しながら、また休息しながら歩いた距離、たゞ一生懸命に歩いた距離と時間の差、今回担当の小生は完全に地形図を読むのに失敗した。結果として、今回の登山ルートは最短コースを登ったが、現在地点確認には完全に錯覚してしまった。参加者には申し訳なく紙面をお借りしてお詫び致します。

#### コース・タイム

9.00 西京極体育館 - 10.00 林道終点 10.05 - 右への分岐点 10.30 - 12.15 昼食 1.00 - 1.30  
頂上 2.05 - 4.05 林道終点

#### 参加者

武田、井上、三橋、広瀬、大槻、各家族、畑、渡辺朋子 計22名

## 五 蛇 池 山

## 山村敏郎氏還暦記念登山

宮 後 正 樹

「濃い緑の樹林にかこまれた一面緑の草が生ひ茂った湿地である。池の縁と思はれる所に立って居ると、静寂と樹林と池の緑とが妖気を漂はせてぞっとするような気持だ。気がつくといつか私の足は少しづつ少しづつ草の間に沈んで行く。私は既に池の中に立って居たのであった。」京都岳界の先輩、故森本次男氏は奥美濃紀行「樹林の山旅。(昭和15年12月発行)の「忘れられた山々」の中でこう綴っておられる。またこれを引用して五蛇池山を紹介した岐阜岳連の「ぎふ百山」にはさらに「それから三十年、歳月が土砂を運んで、今では夏草が茂るだけの草地に変えてしまった。そして他の四つの池もまた、今はどこにあるのか、誰も知らない。知ろうともしない。」と結ばれている。去年の4月、芒波打つ鈴鹿の龍ヶ岳で、牧、田中兩名菅部員の還暦お祝いの登山をやったとき、すでに来年の山村氏還暦記念の山は奥美濃の五蛇池山にしようと決めていた山である。その発案者でもあった田中忠久君が不規則な勤務体制にもかかわらず先行してルートハンティングをやったと申し出をうけ、上島、三橋両君の同行をお願いして好意に甘えた。

共同装備などを積込んで局前を2台の車で出発し名神東インターでさらに乗合せてやって来た2台の車とドッキングし京都を離れたが折からのゴールデンウィークでインター周辺はまさにウンコ、ぎっしりと詰った車で約1時間を要していた。

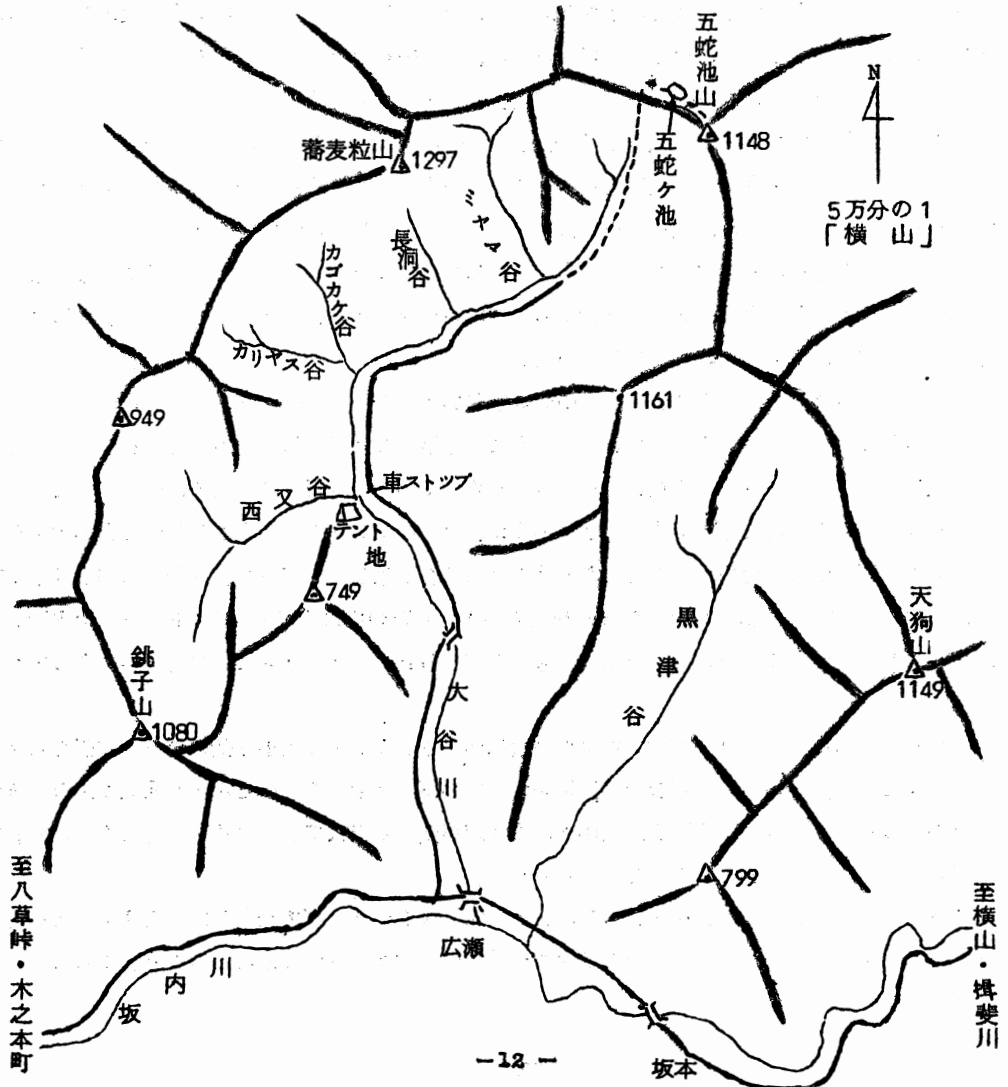
新緑に萌える揖斐川沿いを北上し、横山ダムを跨いで坂内川の快適なドライブで古い静かな山村、広瀬の部落につく。美濃紙をすいているというこの部落も今はどうしているのであろう。蕎麦粒山がお久しぶりとスカイラインを描いてその威容を誇っていた。庭石採取のために建設されたという林道は今や大谷川の殆んど最奥まで伸びているが、今冬の豪雪被害で頂度西又谷の出会いで落石がありストップ。既に3台の車が止っておりそのうち2台が京都ナンバーで、京都5:00出発8:15着、8:50発との書き置きのある先発三橋君の車と、松阪の山口氏ご夫妻を案内しての伊藤さんの車であった。伊藤さんの予定では冠山に登って合流するとのことであったので随分早く登ってこられたものだ。

西又谷の広い河原に下りて幕営、炊事の設営にかかる。みるみる大小6張のテントが張られ手際よく皆んながいかいしく前夜祭の準備にかかっている。そのうち伊藤さんとお元気の山口ご夫妻の姿があらわれ歓迎の握手を交す。冠山へはまだ道路整備が出来ておらず不通だったので蕎麦粒山を目指したが途中から引返して来られたとのこと。

タラの芽を手にかき揚げ、田中、三橋、上島の先発隊が引きあげて来たのは頂度17時であった。ルートハンティングの大役を果し稜線のヤブや頂上の展望まで拓いて来たとのこと、ご苦労さんでした。

山口、山村両氏からウイスキー、清酒の贈呈もあり名コック石田、岡本両君の献立に、岡田、大槻君の山菜料理など盛り沢山のご馳走に前夜祭は焚火の火とともに盛んになり飲んで歌って大いに歓談した。

心配した天候もどりやら持ちそうである。4時起床、新緑鮮やかな気持ちのいい朝である。山村氏を先頭に山口ご夫妻、名誉部員と続き5時50分、勇躍出発する。対岸カリヤス谷の連瀨が白蛇のように落ちていた。雪崩のためか林道は所々土砂に埋り乗り起えながら頂度1時間で林道終点ミヤマ谷の出会いにつく。ここからは谷通し北の徳山村戸入へ通じる広瀬又への古い五蛇池峠越えの径を辿ることになる。石垣を組んだ古い径が残っておりかつて盛んだった炭焼釜の跡がいくつもあついつしか径は消え失せて快適な谷蒸をどンドン稼ぐようになる。大きな石楠花が満開で我々を迎えてくれる。足下にはショウジョウバカマ、イワウチワ、エンレイソウなどが可憐な花をつけ飾っていた。峠直下まできれいな水がありヤブもなしに快ビッチで五蛇池峠に登りつく。



峠は流石に灌木と根曲り竹の密生で直ぐ左手には蕎麦粒山への1220mと1200m峰がグロテスクな山容でかぶさるように迫っていた。ふり返る大谷川の上には金糞岳が大きい。反対側木の間越しには奥美濃の盟主能郷白山が真白い残雪をつけた加賀の白山を左肩に添えて堂々たる姿を横たえ、続く若丸山の秀麗な三角形が印象的だった。峠越えの道は果してここを通っているのだろうか、やはり向う側へ下る道は見当らなかった。昨日刈り分けてくれた先発隊のルートを辿って稜線のヤブを少し登り左側へ少し下ると広瀬又の源頭となり残雪を踏んでパッと池に出る。立枯れの灌木に囲まれた沼地の池畔を一巡する。五蛇ヶ池・黒体龍王大神と書いた標柱が立木にもたれかけてあり「あれから三十年、歳月が土砂を運んで、今では夏草の茂るただの草地に変えてしまった。…」とあった池に水が戻っていたのである。5月の薫風にさざ波を立てて。その美しい幽そりの状景に何だか救われたような安堵感をいだきながらただ見とれていた。

頂上へは最後のヤブを漕いでもうそこであった。今日の主客山村氏を先頭に次々と三角点を極める。伊藤さんの発声で山村氏の還暦と五蛇池山の登頂を祝って萬歳を高らかに唱える。三角点には缶ビールのほか沢山のお供え物と伊勢神宮の檜の蛇の一刃刻が飾られ来年還暦の畑さんの音頭でカンバイ。記念品の赤いベストを山口夫人に着せてもらった山村氏はご満悦そのもの。拍手と歓声が一きわ高く山頂を包んだ。円陣を囲んで昼食、樹上に登って展望を楽しむ。埴斐川を隔てて直ぐ対岸には雷、花房、権現と懐かしい山波が連なり、あたかも笠ヶ岳から蒲田川を隔てて眺める北ア連峰の如くに連なっていた。

去り難い山頂に1時間余、ヤッホーをかけて下山する。帰路は山口ご夫妻と別れて303号線の八草峠越えに挑戦、滋賀県側の道路荒廃には必死のドライブで肝を冷やした。それにしても年々還暦をお迎えになるOB部員とともに若い部員や時には息子や娘までも伴って一緒にお祝い登山のできる山岳部、こんな山の会はそうザラにはないのではないか。こういった仲間を大切にしたい。有難い、幸せなことである。

【参加者】 特別参加 山口政一ご夫妻、 山村敏郎、伊藤潤治、牧 定夫、畑 照人、  
武田喜久郎、岡本義弘、石田幸次、大槻雅弘、鷲見敏一、岡田茂久、広瀬 烈、  
三橋 勉、 田中忠久、上島和彦、柳田 晃、宮後正樹 以上 18人

【記念品賛同者】 上記参加者のほか  
近藤 薫、 田中定勝、中村維源、王生そと、三浦貞義、坂井久光、楠とし子、  
吉田 武、 西村克己 以上 9人

【コース・タイム】 52.5.3~4 (晴・曇)

5/3 10.00 交通局前発 - 12.00 関ヶ原1ンター 12.40 ~ 13.20 埴斐峠、昼食…  
14.20 林道西又谷出合… 15.10 伊藤、山口ご夫妻帰る… 17.00 偵察先発隊帰る

5/4 4.00 起床… 5.50 出発… 6.15 カリヤス谷対岸… 6.50 ~ 7.00 林道終点、ミヤマ  
谷出合… 7.15 炭焼釜跡… 7.20 出合、左へ… 7.30 釜跡… 7.45 出合、釜跡、右の  
谷へ(N)… 8.45 水切れる、ツメ… 9.53 ~ 9.05 五蛇池峠… 9.15 ~ 9.30 五蛇  
ヶ池… 10.00 ~ 11.15 五蛇池山、三等三角点… 11.52 五蛇池峠… 13.35 ~ 13.45  
林道終点… 14.30 ~ 15.00 車、西又谷出合… 17.15 ~ 18.00 長浜、浜湖月(夕食)

# 偵 察 行

田 中 忠 久

5月3日 4時半に家を出る。大谷川、西又谷出合に8時頃に着く。朝食后、1:25000地形図「美濃広瀬」に記載されている左岸の林道をとる。この林道はどこまで続いているのだろうか、林道終点からさらに道はあるのだろうか、稜線(五蛇ヶ池峠)まで谷筋はどんな状態だろうか、五蛇ヶ池とはどんな池だろうか、山頂に至るブッシュの状態は、雪渓は…明日の本番山行に備えて、これらを実地に偵察するのが今日の私達3人(上島、三橋、田中)の目的である。

林道は途中数ヶ所崩れてはいたが、ミヤマ谷出合(標高635m地点)まで続いていた。約1時間この林道は、いつ、どこで、どんな状態で途切れるのだろうかと不安な気持ちで歩いたが、ミヤマ谷出合はたいへんよい処で、左岸にさらに細い道があった。道は標高675m地点の谷の出合で右岸に移ったが、最後の炭焼釜跡(3つ目)まで細々と続いていた。そこは標高750m地点の谷の出合の手前で、あとは谷筋を登って行けば、稜線までわずかだろうと思われた。標高810m地点の谷の出合を確認して、さらに谷筋を登ったが水流はほとんど稜線直下までであった。

登り着いたのは峠らしからぬ処だが、最低鞍部の標高1005m地点に間違いはなかった。北に能郷白山、南に金糞岳が見渡せた。そこから東へ10分程稜線を登り、右手、広瀬又の源頭の雪渓へ下り、谷通しに、五蛇ヶ池の横を通り、雪渓を伝い、最後はブッシュをこいで頂上に達した。明日のために周回を少し切開き、能郷白山や小津の山々が見渡せるようにして下山した。

翌日、山村さんを先頭に楽しく、にぎやかに登ったが、思えば12年前の己年に、坂井さん、宮後さん、畑さん、岡田君達とやって来て雨で退去し、その時に次の己年に登ろうと決めた山だけに何かほっと肩の荷が降りたふうな今回の山行であった。その2年前、ひとり蕎麦粒山に登ったとき、西又谷出合に出作りのための小屋があり、その小屋に泊ったが、夕陽に照える蕎麦粒山が、たまたま美しくあったのが、まるで昨今のこのように思い出される今回の山行でもあった。

5/3	京都東インター	5.05	五蛇ヶ池峠	12.00
	西又谷出合 標高 350m	7.45~8.50	五蛇ヶ池	12.15
	ミヤマ谷出合 # 635m	9.50~10.05	五蛇ヶ池山	12.50~14.00
	谷出合 # 675m	10.20~10.30	西又谷出合	16.50
	谷出合 # 750m	10.45	偵察山行参加者	
	谷出合 # 810m	11.00~11.15	上島和彦、三橋勉、田中忠久	

## 還暦記念五蛇池登山について御礼

名誉部員 山 村 敏 郎

本年は己歳で不肖の還暦にあたるのでお祝い登山として干支にちなんで五蛇ヶ池山に登ると

の事で御招待をうけ5月3日～4日と新緑の美濃の山にのぼらせてもらいました。お忙しい中わざわざ私のために色々準備のうえ大勢が参加していただき、また仕事の都合で御参加になれなかった人々も含めて多数の人々から結構な記念品を頂戴し感激のいたりであります。これを機会に山から足をあらうという事ではなくて、若い人々と同じようにはゆきませんが、精々努力していつまでも健康の許す限り山登りを続けたいと思っています。帰ってからあちこちで今回の山行の話をしなすと還暦にもなって山に登るときいてあきれると同時にいつまでも吾々「卒業」部員の面倒をみってくれる京交山岳部のあり方に感心する人が多いので、自分が褒められたような気になりうれしい限りです。以上甚だ簡単であります但し御礼旁々今後共御激励御鞭達程よろしくお願いと共京交山岳部の御発展を祈り御礼の言葉といたします。

## 愛宕周辺の山

### 梨木谷一龍ヶ岳一愛宕

畑 照 人

4月21日 晴

例の通り空也滝道で自転車止めて装備していると後から「一寸尋ねますが、月輪寺から愛宕さんへお参りする道はここですか…」「ハイそうですが…。」と振り返り顔見合わせてアッとおどろく為五郎ではないが何と交通局の同じ職場だった福田君である。全くの偶然とは云い乍らよくまあ出会ったものだ。暫らく歓談する。定年退職したこと知らないという。まだまだ現役中だと思っていた由。山歩きすると若く見えてくるのかも…。これも御利益の一つであろう。私は梨木谷から首無地蔵へ行くので此処で分れる。林道の終点で一服する。材木を出した跡はきれいに整地されて杉の苗木が植えられてある。途中マムシクリを3本見る。昨年と同じ場所で約30cm程の新芽を出していた。今日この谷を選んだのもこれが知りたかったからである。安心安心。首無地蔵さんの周辺も一寸ごみが少なくなっている。

芦見源流から竜ヶ岳を目指して歩き出す。私始めて来たのだがなかなか水量も多くてよらしい。お魚も泳いでいます。ダルマ峠からの道との合流点に道標がありそれを進むと立派な小屋が現われた。竜の小屋と書いてある。前には水量の豊かな源流あり、自炊で一夜を過ごしたらどんなに嬉しい事だろうと思った。西に高く見えるのが竜である。東西を直登する事にした。下部は岩場の一寸した連続だが、上部は石楠花の木の森といった感じ。まだ花は咲いてない。しばらく行くと芦見峠からのルートに出て間もなく竜ヶ岳頂上に出た。見晴らしは余り良くない。地蔵山と愛宕さんが一寸見えるだけ。何はともあれ万歳を叫ぶ。何年か前の積雪期に坂井さんに連れられて私と光永君(故人)、安達さん(故人)と四人で登り記念写真をとった事を思い出し又々感無量である。若い前途ある人を失ったのであるから。それも1人は湖、1人は山でのアクシデントに依るものであった。

小休止後、元の道を下る予定であったがそれでは余り面白くない。愛宕神社への道をとる。これ

は又ひどい藪こぎだ。人の背丈以上に茂っている。余程注意しないと外れた道へ足が行く。所々道標もあるが見にくい。然しあることは有難い。誰にも合わないと思っていたのに、好きな人もあるものだ。1人神社の方から歩いてくる。山のエチケット、「今日は」の挨拶を交わす。「竜のシヤクナゲは業者が乱獲したのでサッパリですね」とのことである。月輪寺の道中で猪らしい物体がウロウロするのを見たから注意して下さい。」とのことである。ヤブコギで汗をかいだが、山歩きではヤブも亦良しというところだ。…

予想より早く神社に参拝し、月輪寺ルートで下る。しぐれ桜も散り始めである。石楠花がこれから楽しみだ。今少し咲いている。今年は見頃にもう一度来て見るつもりだ。

コース・タイム 清滝 10,00 - 梨木谷 11,20 - 首無 11,55 - 道標 12,10 - 12,50 竜ヶ岳  
13,20 - 汗 14,25 - 空也道 16,00 気温 11° でした。

## サカサマ峠—ダルマ峠—芦見源流

4月30日 晴

26日に田中さんと約束していた愛宕さん行きが前日雨の為に延期したが、当日晴天になり大変残念であった。今日はどうやら晴天らしい。清滝公園で自転車止めていると、近所のおじいさんが私を見て「いつもようお参りどすなあ…。」といわれたのは一寸驚いた。悪い事は出来ないもの。何処かで見られているらしい。大いに心しよう。先日の半国山行きでマムシ草の花が咲いているのを見たので、私の花?もどうか知らんと思ひ実地検分の為に梨木谷へ入る。もうつぼみをつけていた。合計4本もある。ヤレヤレだ。首無地藏さんからだるま峠へ出て見たい。道が北に向って2本ある。西側の方へ行く。笹がよく刈り込まれて歩き易い。西側はこの前に来た谷道である。このままよい調子で峠まで下れるものと思っていたが、そうは行かない。やがて背を越す大ヤブコギとなる。然しこれも覚悟の上だ。約15分でだるま峠着。小休止、峠から西へ15分でこの小屋へ到着。ワンカップ酒で乾杯する。この小屋は誰が管理しているのか判らない。御自由にお使い下さいと書いてあるが玄関?だけ出入可能だがその向うは鍵がかかっている。2人位ならそこでも寝られぬ事もない。それにしても立派な建物である。源流の水量は中々のものだ。竜の下で三点合流して芦見峠方面へ流れている。この源流を愛宕神社方面へ向って川沿いに歩くのだ。途中の岩の悪場におつかり大失敗見事に約5m滑落する。幸いにも大した怪我はしなかったが、眼鏡が行方不明となる。約30分位さがすがある筈なし。一寸した滝になっているので流されたいらしい。ぬれたらもうヤクソで川中を歩くがルートらしいもの見えず。転落した岩場をもう一度登り引返して見るとチャンと高巻きする道がついている。何でよく見なかったかと大いに反省する。それからほとんど快調になり、途中丸木橋2ヶ所、それも余り重量物には危なかそうなお粗末な物だ。川巾は少しづつ狭くなり、右に左に飛び越して遂に原点へ出る。

昔に砥石の原石を採取していた場所であり、何日か竜ヶ岳へ行こうと思って一足踏み入れた所である。多分此所へ着くのではないかと予想していたものである。その通りであったので、一寸自信



がついた。例の通り神社へ参拝。気温は12°である。表参道、今桜の満開である。実に気持ちよ  
しいな。1時間20分で公園着。愛車でかえった。

コース・タイム 清滝 10.10 - 梨木谷 11.20 - 首無<sub>平</sub> 11.55 - だるま峠 12.10 - 電の小屋  
12.25 - 合流点 12.50 - 源流終 14.10 - 神社 14.30 - 公園 16.20

## 夜 泣 峠

5月8日 晴

東海自然歩道の玄塚から鞍馬のコースを歩く。例の京都ユースホテルの指導で参加する。雲ヶ  
畑街道の大岩から二の瀬までが山歩きの気分になれただけで前後は全く街の中を歩いている様も  
ので一寸期待外れであった。然し天気は快晴で申し分なかった。

尚、夜泣峠のいわれについて、説明によれば吹く風の音が子供の夜泣の声に似ているとか。或は  
峠の椎の木の葉を持ち帰り、夜泣きする幼児の枕の下へ置いて寝かすと、夜泣きするのが止まると  
かいわれているらしいとの事であった。真偽は如何ならん。

## 例 会 報 告

例会№	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1125	半 国 山	4月24日	曇	本局 大槻 雅弘	畑 照人、 渡辺 朋子 武田一家5名、井上一家6名、三橋 一家3名、広瀬一家2名、大槻一家 4名 計 22名	ファミリー登山らしく、おじい ちゃん、おばあちゃんから幼児 まで賑やかな一行全員が元気よ く頂上まで登ってきた。 詳細別稿報告
1126	山村敏郎名 誉部員還暦 お祝い登山 五蛇ヶ池山	5月 3日 ~ 4日	晴 曇	本局 宮後 正樹	山村敏郎氏 伊藤潤治氏 牧 定夫氏 畑 照人氏 武田喜久郎、大槻雅弘、柳田 晃、鷺見敏 一、石田幸次、岡本義弘、広瀬 烈、 三橋 勉、上島和彦、田中忠久、岡田茂久 松坂山岳会、山口ご夫婦	天候に恵ぐまれ、山村さんの還 暦をお祝いして、楽しく五蛇ヶ 池山に登って来た。能郷白山、 小津の山々、加賀の白山等の展 望もよく、雪渓もあって、ほん とらによい山であった。 詳細別稿報告
1127	北山の峠	5月 9日	晴	横大路 井上 国雄 -17-	大西 純一 小林 達雄	ルートの取り違いもあったが、天 候に恵ぐまれ楽しく北山を歩い て来た。

1128	大無間山	5月13日 ～15日	曇	本局 坂井 久光	坂田 利春 松浦 勇次 (一等三角点研究会)	天候がもう一つ悪くて展望はよく なかった。途中熊に出会う。
1129	芦屋ロック ガーデン	5月22日	曇 後 雨	九条第二 後 鷺見 敏一	武田、吉田、 石田、楠、 田中一家4 名、大槻一 家3名、三橋一家5名、鷺見 一家5名、岡本他1名	せっかく楽しみにしていたのに雨 でガッカリ、それでも総勢23名 元気よく岩にも登りおいしいブタ 汁もいただき楽しい一日でした。

## 雑 報

### 5月集会報告

5月18日(水) 下鴨寮

出席者 名誉部員 山村氏、牧氏、中村氏  
 本 局 官後、大槻、武田、岡田、坂井  
 九条第2 鷺見  
 梅 津 吉田  
 五 条 広瀬

計 11名

5月例会報告のあと6月例会と芦屋ロックガーデンの打合せを行う。先日無事登行を終えた山村さんの選登登山の8%を中村氏のテープと共に、名カメラマン官後さんに映写していただきました。

### リーダー会議報告

6月7日 大槻宅

出席者 官後、坂井、武田、鷺見、岡田、石田、岡本、大槻

- 夏山例会計画… 台高東面の谷<sup>バス</sup>連周辺 日時 8月5～7日  
 担当者 大槻雅弘

- マイカー使用登山について…

リーダー会にて意見集約をした。最近の事情も考慮した各意見が出、7月リーダー会にて岡田氏がレポートをまとめる。

- 30周年行事小委員会について…

原案を坂井氏がまとめ、7月リーダー会に提出し、小委員会をリーダー会と離れた日程で協議していく。

- 山岳部運営について(リーダー会も含め)…

部長より原案アンケートを協議し、補足、訂正等して部長より配布する。

- 7月集会 7月19日(火) 下鴨寮

- 7月リーダー会 7月5日 武田氏宅 以上 文責 大槻

山とスキーの店  
京都 ありて

京都市中京区新町三条上ル  
☎075-255-0288

PRO SHOP  
山とスキー **チロル**  
輸入品とオリジナルの店

AM 12.00 ~ PM 9.00 三条御幸町下  
定休日 月曜日 (221) 6188

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウェットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による  
安全確実な潜水指導 (毎週木曜 夜7時ヨリ)

<b>ダイビングプロショップ エリート</b>	スキューバプロ (米)	京都総代理店
	スキューバアポロ	京都総代理店
	AMF ポイト (米)	京都総代理店
	テクニサブ (伊)	京都総代理店

603 京都市北区堀川通北大路上ル東側 TEL 075 (492) 8450

昭和52年6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内 京交山岳部

帆布・漣布  
テント・シート  
雨合羽

**木村工業有限会社**

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)

名古屋営業所  
名古屋市西区見玉町7-30  
TEL 521-7541 代~4

テニス用品  
スキー用品  
山用品

交通局の皆さん  
とりあえず京菱へ  
満足のいくようにします

**京菱運動具店**

下・大宮松原上ル  
TEL 801-1331



この用具の事なら「こに」が一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャースポーツショップ  
そして 海の



中・二条通河原町西 TEL231-1208

お馴染みのスポーツ店

一般スポーツ用品・用具

家庭用体操器具

購買証でご利用下さい

**KK 西沢スポーツ**

中、釜座御池下ル  
TEL 221-5739



まかせて下さい...ネ

山とスキー

のことなら

☆在庫豊富にとり揃えています

☆山の道具は「ゼヒ」御相談下さい

山とスキー専門店

**ビッグホリイケ**

河原町店 上・河原町通丸太町東入  
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側



真の専門店として

好日山荘は前進しております

山とスキー用具の

ことなら御まかせ下さい

確信ある用具を

確信ある価格で....

**好日山荘**



河原町六角下ル東入  
TEL 241-1731